

『父の心遣いありがとう』

- ・父が亡くなった日は、休みにしていた。告別式の日も休みの予定で、忌引は一日だけで済んだ。
 - ・土曜日 通夜、日曜日 告別式……参列者思い！
 - ・秋のお彼岸の終わった後で、お寺さん思い！
 - ・北海道物産展が立ち上がった後だった。前日とか初日だったら大混乱だった。
 - ・会社の特別販売期間中で、満中陰志は売り上げに貢献！
 - ・第九の練習日の翌日だった。もし重なっていたら、毎年狙っている皆勤賞がパーだった。
- そして、
- ・暑さ、寒さ……を避けてくれた。

表面的には認知症だったけど、本能的には、娘を助けてくれた。最期の言葉は、「すまんのう」だったし……。

お父さん、本当に、ありがとう!!

『父についた三つの嘘』

お父さんは、とっくに気づいていたと思うけど……。

まずは、私の自転車。お父さんが私のために最後に作ってくれたのは……、あまりに小さく、型も古い白色のミニサイクルで……。がっちり丈夫だけど……、さりげなく店に返した。

そして……、他の店で、希望の大きさの中古を買った。実家に行く時は、手前のブロックに停めて歩いて行った。「必要な時はマンションの自転車を借りている」と言った。ごめん。

次は、私の足の手術。足が悪いことは言っていて、杖を忘れて帰りかけ、「お〜い！ 杖」と言われたことも。

入院して手術した時、父さんに面会に来てもらうことも考えたけど、母さんの時、一人で面会に行こうとして自転車で転倒してケガしたし……。それが怖くて内緒にした。

お父さんの調子もよく、甥が写メールで様子を見せてくれて安心した。おかげで今も人工関

節の状態も良好で、お父さんのお世話も、お見送り、後片付けもできている。

そして翌年、合唱活動でロシアへ。申し込んだ時はお父さんの調子は良く、安心していただけ、出発の一カ月くらい前から様子が変に。熱中症にならないよう水分を摂って……と言えど、酒を飲む。捨てても次の日には買っている。「アルコールは余計悪いんよ」と言ってもダメ。どうしよう……。ヤバイよ。普通の旅行ならキャンセルする。でも素人がモスクワ音楽院で歌えるチャンスなんてない。やめたら、悔い、恨みが残ると思う。どうしよう……。

介護認定は受けている、地域包括支援センターに連絡する。ケアマネージャーを決めてもらい面談。事情を話し、旅行中だけショートステイさせてもらうことに。

不安が全くなかったわけではないが、父の生命の安全は確保され、八日間、モスクワとサンクトペテルブルグで歌ったり、観光を楽しむことができた。

帰国して、全国銘菓の売場で買った北陸かどこのお土産を持って施設へ。

ロシアのお菓子を無理やり、父の口に入れた。

その後、自宅での一人暮らしは難しい……というこ

とで、グループホームに入居させてもらおう。結果的に施設入居に踏みきれてよかったと思う。

お父さん、ごめんなさい。

2014年(平成26年)12月26日 金曜日

亡き父母 姉思い第九歌う

河原孝 60 久しぶりに父の聴きに来た。硬膜下血(岡山市北区)腫の度重なる手術を繰り返して、昨年、年末に歌えなくなった。12月14日、今年も特別スタッフと職員の姿を思いで第九を、1年前の第九には、胸が熱くなった。終演後、ロビーで父は笑顔で「かっか、来年も来る。巨艦を毎年来るからう」と言ってくれた。「私も元気で歌おうとおえんわ」。その父は今年9月下旬、88歳で亡くなった。第九の練習日を継いでくれて、

おかげで練習参加の音動員がいた。岡山シンフォニーホールの客席に、チケットを手に定額された。15人の友人、知人とは別に、3人の客がいた。5年前に亡くなった姉を父が誇らなっていた。4年前に亡くなった姉を父が誇らないうちに先導して。来年もずっと練習に参らない。チケット代いらんからな!

